山忠ＨＤと小樽商大共同の起業家教育

十勝企業と課程開発へ

試行実習参加の学生来勝

【音更】山忠ホールディングス（ＨＤ）＝音更町、山本英明社長＝は、小樽商科大が来春開設予定の新科目「アントレプレナーシップ（起業家精神）プログラム」（実践実習）の開発を同大と共同研究している。経営統合する帯広畜産大と北見工大との共通科目化も目指しており、６、７日には試行プログラムに参加する学生らが初来勝。同社が事業拠点とする町内の旧昭和小などで、経営や起業に関する講義が展開された。

大津教授の司会で、米田社長、山本社長と学生が質疑応答を通じ交流した（６日、音更・旧昭和小で）

「アントレ」は地域・企業などにおける革新を実行できる人材を育成するプログラム。山忠ＨＤの中核である雑穀卸・山本忠信商店が２０１６年度から小樽商大とビジネス関連の共同研究を続けている。３月に地方創生ベンチャー「そら」（帯広市、米田健史社長）と共同出資で起業家支援の新会社「コントレイル」を立ち上げた縁で、ノウハウを提供できることから協力が決まった。

同大では単位は付かない試行講座を立ち上げ、３大学に加え、はこだて未来大を加えた４校から学生を募り、８月から27人参加で講義を重ねている。今回は後半第１弾（６回目）で初の現地研修。小樽商大や北見工大、はこだて未来大の学生10人が来勝した。

６日は学生らが旧昭和小で、野村證券を退職し１年半前に起業した米田社長、老舗会社を継ぎ経営改革を行った山本社長の経験談などの話を聞き、質疑応答などで交流した。

７日は市内のとかちプラザで２チームに分かれ事業アイデアなどを検討した。小樽商科大３年の神門崇晶さん（21）は「明確な事業ビジョンが大事。業績はその先にあることが分かった」と笑顔。同プログラムを統括する小樽商科大の大津晶教授（社会情報学科）は「十勝の企業と連携し、先進的プログラムが作れそうだ」と話した。

来年１月下旬の最終講座ではチーム単位でビジネスプランの発表会も予定されており、山忠ＨＤの池内幸介経営企画室長は「３大学統合のカリキュラムに関われることは大変光栄」、米田社長は「有効なプランには実際に出資や支援を考えている」と話していた。

（佐藤いづみ）

令和３年１１月１１日　北海道新聞（朝刊/１６面/地域の話題）
「小春六花」スタンプラリーについて

「小春六花」スタンプラリー好評

小樽の商店街や水族館など12カ所

歌ったり文章を読み上げたりする音声合成ソフトのキャラクター「小春六花（こはるりっか）」を使った、小樽市内の観光名所などを巡るスタンプラリーが好評だ。小樽観光協会が1日に始め、100人分を用意した景品はすでに８割超を配布。地元の観光関係者は、インターネットの動画でも活躍する「小春六花」のファンなど、新たな客層の掘り起こしに手応えを感じている。

（宮本夕梨華）

小春六花のスタンプを紹介するホテル・トリフィート小樽運河の担当者

「小春六花」は合同会社「TOKYO6 ENTERTAINMENT」（東京）が生み出したキャラクターで、同社は今年春から小樽観光協会などと連携。「小春六花」と、ほかの2人のキャラクターが、小樽商科大がモデルの架空の高校「小樽潮風高校」に通うという設定で観光PRを行ってきた。

観光協会 閑散期のにぎわいづくりに

スタンプラリーは、例年この時期に観光客が減る市内で「まち歩き」を楽しむ人を増やそうと、初めて企画。スタンプ台は、堺町通り商店街やおたる水族館など12カ所に設置した。

参加者は運河プラザで台帳を購入し、7カ所でスタンプを押すと、景品として「小春六花」などが描かれたクリアファイルがもらえる。景品は先着順の100枚限定で、10日までに残りは18枚となっている。

スタンプ台を設置しているホテル・トリフィート小樽運河（色内1）は、キャラクターのファンをターゲットに「小春六花」のマグカップ付き宿泊プランを提供。若い男性を中心に問い合わせが多く「かなり予約が入っている」（担当者）という。小樽観光協会は「スタンプラリーをきっかけに、小樽での食事や買い物も楽しんでもらえれば」と期待している。